

参加報告書

「8th Korea Open International Dragon Boat Festival」

2018 年 10 月 20 日
TAITAM X DRAGONS
遠征参加クルー一同

参加報告書 目次

- 1 はじめに
- 2 韓国・釜山への道
- 3 釜山 DAYS
- 4 学びの多かった時間
- 5 さいごに



メンバーの熱い遠征希望理由・・・

"行けるなら行ってみたい"

"海外でレースを経験してみたい"

"自分たちの今の漕ぎが海外で通用するのか試してみたい"

"アジア発祥の競技を他国の人たちがやっているのを見てみたい"

"国外のドラゴンボートレースが日本とどう違うのか見てみたい"

"先輩クルーと一緒に海外レースで同じ目標のもとで漕ぎたい"

"海外チームとの交流を図りたい"



初レース前、召集場所で

1. はじめに

2018 年 9 月 7 日から 9 日にかけて開催された「第 8 回韓国・釜山国際ドラゴンボートフェスティバル」に TAITAM X DRAGONS はスモールボート・オープンで参加しました。この報告書はドラゴンボートを始めて 1～3 年のメンバーたちのコメントを中心に纏めたものです。初海外渡航者もあり、英語・韓国語もわからない者もあり、そしてほとんどが初海外遠征での遠征になりました。素直に感じたこと、経験したことを共有できればと思います。以下、ご報告させていただきます。

2. 韓国・釜山への道

今春、韓国・釜山で 9 月にレースがあることを知りました。ドラゴンボート初心者たちなりに熱い思いが募り、初めての「海外遠征」にける思いで日程調整に励み、メンバーたちのまっすぐな気持ちや熱い思いが纏まり、釜山への道が開かれました。これから国内のレースシーズンが始まろうとするちょうど桜の咲く時期のことでした。

日本協会の計らいで釜山遠征決定と同時に、今年のレースシーズンがスタート。5 月東京ドラゴンボート大会、7 月日本選手権を経て、自分たちのメンタルの弱さ、スタミナ・体力のなさに気づきながら、猛暑の 8 月を迎えました。自分たちに足りないこと、これまでのレースで失敗したこと、経験したことのない 500m 戦に向けた体力づくり、コンディション調整に励みました。遠征中の参加チームとの交流のために、チーム T シャツを制作し、気持ちも高まっていきました。と同時に、普通の海外旅行と違うレース遠征での出国準備、どうすればいいのだろうか？ということも気にしながら、出発までの時間をカウントダウンしていったのでした。

☞「初海外遠征・わからないこと」クルーからよくあった質問
ほぼ、ドラゴンボート用具に関することでした。

・どうやってパドルを梱包すればいいのか？
・搭乗手続時にパドルを預けるのは有料なのか？
・無料でパドルをLCC機内預かりにするにはどうすればいいのか？
・膨張式ライフジャケットの機内預かりは受けてもらえるのか？

利用航空会社により持込条件、手荷物ルールが異なるため、搭乗前に航空会社ホームページ等で確認をするようにしました。
ゴルフバックでパドルを運んだクルーもいました。



3. 釜山 DAYS

9/7(金)、天候は雨。200m レースの日。8 時前に会場入り。初めての海外でのレースが始まりました。予選は5位のため準決勝には行けず、敗者復活戦へ。敗者復活戦のタイムは3着でしたが、準決勝には行けず 200m レースは終了。最初のレースで、皆、ほぼほぼ初海外のレースということもありましたが、終始とにかく固い上に地に足がついていない感じでいました。練習を積んできたことを発揮するのは難しく、これが海外の怖さなのかと体感する出来事でした。

予選: 57 秒 19

敗復: 58 秒 59 (1 位 58 秒 11、2 位 58 秒 14 のチームが準決勝進出)

一緒に日本から参加した bpさんは予選・準決勝・決勝まで順当に勝ち上がり、見事優勝！チーム日本として一緒に応援しながら、私たちも喜びを分かち合いました。



"外国人選手との体格差は一目瞭然。一生懸命やるしかない"

"チーム全員の気持ちがレースで勝つ事に向いていて、レース前に全員自然に集中し始めるチームが多かった"

"メンタルの強化がさらに必要と感じた。死にものぐりい感じが自分たちには足りない..."

"自分たちに不足しているのは体力ということが身に染みて理解できた。海外チームの筋力と持久力はレベルが違った。これからはチームのフィジカル面強化を徹底することが必要であると感じた。"

"誰かに指示されるのでは無く、一人一人が自主的に動かないといけないと思った"。

9/8(土)、前日と変わり好天。500m レースの日。練習を重ねてきたとはいえ、初めて挑む 500m レースの本番です。1本目は特に緊張無く良い感じで入れましたが、2本目は少し気負ってしまった感がありました。敗者復活戦では全員が準決勝に行きたいと強く思っていた中、200m と同じく敗復で終わるという非常に残念な結果でしたが、練習よりも大きくタイムを縮められたこと、他チームと比べても遜色のないタイムを出せたことは、やってきた練習は嘘をつかない、私たち初心者だってやればできるんだ！という収穫となり、チームとしてやりきった感が大きかったと思います。私たちが負けてしまっただけで帰ってきたところで嬉しかったことは、bp さんのお出迎えと上げ上げのタイタムコールを頂いたことでした。bp の皆さんと一緒にいられたことやこういう交流をしていただいたことは"チーム日本"をまさに体感する嬉しい出来事でした。

予選: 2 分 26 秒 13

敗復: 2 分 25 秒 79 (1 位 2 分 23 秒 90、2 位 2 分 24 秒 31 のチームが準決勝進出)



9/9(日)、前日の 500m レースの結果、決勝進出した bp さんの応援でした。同じ日本人・チーム日本として、精一杯応援させていただきました。準優勝、惜しかったです。前日の bp さんに代わり、今度は私たちの出番と、皆でお出迎えとハイタッチを交わしました。全レース終了後、メンバーの半分が翌日の仕事のために慌しく帰国の途につきました。そしてその後の閉会式、ドローンを使った空撮などイベントとしての運営の盛り上げ方が上手く、勝敗にかかわらず、参加者の皆が楽しんでいる空気を作り出す風景は、海外レースならではの素晴らしさを実感する印象的な出来事でした。



"たくさんの方に日本に興味を持ってもらったことは大きな驚きでした。こういう交流もいいものだ、やはり楽しむことは忘れてはいけなかったパーティーでした。



日本チーム付きボランティア
ガイドの Jeong Sangwon さん

その晩、残ったメンバーでセレブレーションパーティーに参加しました。総勢 600 名、各国ごとに大きな丸テーブルが用意され、ビュッフェ形式での食事が提供され、ステージでは有志チームが余興を繰り広げ、プロの K-POP グループによるエンターテインメントも行われました。各国のドラゴンボーターが一体となってフロアーで踊る姿をみて、ドラゴンボートというスポーツを通じて国境を越えてみんながひとつになった一体感を味わいました。他にもビンゴによる抽選会あり、参加チームへの参加賞授与、そして参加者同士でもたくさん交流しました。レースはレース、楽しむ時は楽しむといった事をまさに象徴した出来事でした。



4. 学びの多かった時間

集中力と精神統一的なものなのか意外にも荒々しさをあまり感じさせない海外チーム、試合に臨む姿勢や意識が高いものと感じました。同じ日本チームの bp さんから学んだことが多かったです。普段日本にいたとほとんど交流できる機会がなかったのですが、今回 bp さんのいろいろなクルーといろいろお話させていただく機会を、たくさん作っていただいたことはとても有意義な時間となりました。

また、他の国の人たちも、会場で会えば微笑んでくれたりハイタッチやサムズアップしてくれたりとか・・・自分から少し踏み出してみるだけで、そういう国際大会ならではの普段とは違った景色も見ることができ、経験できたことは、初心者である私たちが参加してみたからこそその大きな収穫だったと思います。

物怖じしないで自分が話すだけで覚えてもらえたり、ハイイなんて軽い挨拶を交わすことができたりする。小さな交流ですが一歩前に出ることで体験できる楽しい出来事でした。

5. さいごに

大会運営が素晴らしいものでした。大会前日のマネージャーミーティングから始まり、レース中、レース後のパーティーまで運営のノウハウによるところが非常に大きいことを目のあたりにしました。

大会運営に関わられた皆様、日本から送り出してくださいました日本協会の皆様、そして滞在中お世話になりました bp の皆様、おかげさまで楽しく多くの経験をさせていただきました。ありがとうございました。

文責: TAITAM X DRAGONS 丸山春海